

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
～はじまりは一粒の“砂金”から～				
1-1	いわいさき 岩井崎 さんりくふっこうこくりつこうえん (三陸復興国立公園)	未指定 (天然記念物)	三陸リアス海岸の岬の1つであり、三陸ジオパークのジオサイトの1つ「岩井崎」は、浸食された岩の割れ目から高く吹き上げる潮が美しい景勝地であるとともに、日本列島では珍しい古生代の地質が剥き出しとなっています。金脈を探す指標である、地質の“へり”を間近に見ることができる貴重な場所には浪漫が溢れています。	宮城県 気仙沼市
1-2	ひかみさん 氷上山	未指定 (名勝、天然記念物)	約4億5千万年前の氷上花崗岩で構成される三陸ジオパークのジオサイトの山(874m)。古くから良質な金や水晶の産出で知られ、玉山金山遺跡は氷上山の中腹に位置しています。	岩手県 陸前高田市
1-3	けせんもとよしおんえず 気仙本吉御絵図	市有形 (歴史資料)	気仙郡(岩手県大船渡市、陸前高田市、住田町を中心とする地域)と本吉郡(宮城県気仙沼市、南三陸町を中心とする地域)にある金山34か所を黄金色で示した近世絵図。広範囲に金資源が点在する様子がよく分かります。豊臣秀吉や伊達政宗など戦国武将たちが、金山を掌握し、積極的に採金事業を展開させた状況を具体的に示す貴重な資料です。	宮城県 気仙沼市
≪奥州・平泉≫ かいこんじき 皆金色の理想郷				
2-1	ちゅうそんじこんじきどう 中尊寺金色堂	国宝 (建造物の部)	「みちのく」の砂金をもとに築かれた皆金色の仏堂。金の加工はもとより、国内外産の物産をふんだんに使い当時の装飾技術をあますことなく使っています。造営主である奥州藤原氏は、財力を誇示するためではなく、争いのない平和で平等な世を願う理想郷を厳かな光を放つ「金」で表現しました。「黄金の国ジパング」に記載された「黄金の宮殿や民家」のモデルとなったと言われています。	岩手県 平泉町 (中尊寺)

2-2	きんぎんまきえかがみばこ 金銀蒔絵鏡箱	重文	金色堂と同様に当時の装飾技術をあますことなく使う鏡箱。平泉で生産されたもので、当時の平泉には、細密工芸の粋が集められていたことを示しています。	岩手県 平泉町 (平泉文化遺産センター)
2-3	さきんふちやくかたくちぼちはへん 砂金付着片口鉢破片	重文 (考古資料)	集積した「みちのくの砂金」を金粉に加工する際に使われた道具。加工した金は蒔絵や金泥に使用されました。当時の平泉には、理想郷を具現するため、産出した金を集めると共に、それを活かすための工芸技術の粋が集められていたことを示しています。	岩手県 平泉町 (平泉文化遺産センター)
2-4	ようかいきんふちやくるつぼはへん 溶解金付着坩堝破片	重文 (考古資料)	集積した「みちのくの砂金」を溶解する際に使われた道具。溶解した金は金銅製品に使用されました。当時の平泉には、理想郷を具現するため、産出した金を集めると共に、それを活かすための工芸技術の粋が集められていたことを示しています。	岩手県 平泉町 (平泉文化遺産センター)
2-5	たつがねさんきょうづかくん 田東山経塚群	県史跡	奥州藤原氏が神仏に祈りを捧げる拠点とした田東山三ヶ寺（清水寺、寂光寺、金峰寺）の中央、田東山山頂につくられた 11 基の経塚。末法思想が広がっていた平安時代末期、経典を後世に残すため、金銅製の筒に入れた経典を埋め、塚を築きました。奥州藤原氏が産金の拠点とした三陸地方、気仙本吉御絵図に記載される近世金山地帯が一望できる適地につくられています。理想郷の創造をすすめる奥州藤原氏が三陸の産金地域に与えた影響力の強さを物語ることのできる重要な遺跡です。	宮城県 気仙沼市 南三陸町
2-6	こんしきんでいだいはんにやきょう 紺紙金泥大般若経	県有形 (書跡・典籍)	奥州藤原氏が神仏信仰の拠点とした田東山「寂光寺」の什物として伝世する一切経。金銀泥で経文を書写しており、平泉中尊寺に残る紺紙金泥一切経の一卷と考えられています。当時の信仰が金によって支えられていたことを理解できるだけでなく、田東山に展開した仏教遺跡群が、奥州藤原氏の影響を強く受けていることを具体的に示す貴重な遺物です。	宮城県 南三陸町 (荒澤神社)

2-7	かんのんじこんどうそうおい 観音寺金銅装笈	市有形 (工芸品)	三陸地方と平泉中尊寺とのかかわりが深い観音寺に伝わる山伏が背負った笈。仏像や仏具・経典を納め、リュックサックのように使用します。全面に仏教的なモチーフが細工され、金で鍍金された優れた工芸品です。金工技術を今に伝える歴史的な工芸品です。	宮城県 気仙沼市
こがねやま 《黄金山産金遺跡》 日本の“金”発祥の聖地				
3-1	こがねやまさんきんいせき 黄金山産金遺跡	国史跡	黄金山地区にある仏堂跡。日本初の産金について聖武天皇が「神仏が祝福したもの」と宣べたことを受け、採金の現地に建立した仏堂です。日本初の産金の場所がこの地であることを確定する重要な遺跡です。	宮城県 涌谷町
3-2	こがねやまさんきんいせき 黄金山産金遺跡 しゅつどこがわら 出土古瓦	県有形 (考古資料)	黄金山産金遺跡に建てられた仏堂に使われた屋根瓦。瓦の形状から円堂形式の仏堂が建てられたこと、『天平』と年号を記載した瓦が含まれるため仏堂の建築年代を天平年間に限定することができます。遺跡の内容を具体的にする重要な資料です。	宮城県 涌谷町 (天平ろまん館)
3-3	こがねやまじんじゃ 黄金山神社	拝殿：町有形 本殿：未指定 (建造物)	産金を記念して建てられた仏堂跡の上に建つ神社。神社の由緒は日本初の産金時まで遡り、近世まで金を産する山自体が御神体であったと伝えられています。産金を記念して建てられた仏堂が遺跡となった後も、日本初の産金地がこの場所にあることを伝えて続けてきた由緒ある神社です。	宮城県 涌谷町
3-4	まんよう か ひ 万葉歌碑	未指定 (有形)	黄金山神社境内にある歌碑。聖武天皇とともに産出の喜びを詠う大伴家持の万葉歌を刻んでおり、「小田郡(涌谷町)にある山」で産出した「金」が、はるか奈良の都に運ばれ国家的な慶事となったことが詠み込まれています。「みちのくの金」を象徴する歌碑となっています。	宮城県 涌谷町

3-5	ののだけさん 籠岳山	未指定 (名勝、天然記念物)	涌谷町域の中心に位置する霊峰籠岳山(236m)。黄金沢を始めとして、砂金を産出する河川が山中を流れています。万葉歌に「小田郡(涌谷町)にある山」で産出したとあり、この山を舞台に日本初の採金事業が展開したことが明らかとなっています。	宮城県 涌谷町
3-6	ののだけ わくや さきん 籠岳・涌谷の砂金	未指定 (天然記念物)	涌谷町の籠岳山から産出する砂金。地層の中に砂金が堆積する二次鉱床を起源とします。日本の採金史が「砂金採り」にはじまることを明示する鉱物です。749(天平21)年に初めて採取した砂金は、東大寺盧舎那仏の鍍金(金メッキ)材料として用いられました。	宮城県 涌谷町 (天平ろまん館)
<b>《玉山金山》 金山採掘の栄枯盛衰</b>				
4-1	きんざんごほんばん 金山御本判	市有形 (歴史資料)	豊臣秀吉がはじめた金採取制度の許可証。個人や少人数で稼働する、砂金採取や鉱石の露天掘りを許可した木製の許可書です。秀吉以後も伊達政宗が継承し実施。やがてこの制度を通じて採金は、人々の生業の1つとして地域に広く根付いていきました。古代から続く「みちのく」の砂金採取は、近世になっても為政者たちを魅了していたことを示しています。	宮城県 気仙沼市 (リアス・アーケ 美術館)
4-2	たまやまきんざんいせき 玉山金山遺跡	未指定 (史跡)	氷上山中腹に位置する金山。江戸時代、伊達政宗が積極的に金山開発を行い「気仙4大金山」の1つと呼ばれました。精錬所跡、検問所跡、千人坑などの遺構が山中に点在しており、近世の金山についてその全容を知ることができます。	岩手県 陸前高田市

4-3	よしだ けもんじょ 吉田家文書	県有形 (古文書)	気仙地区の金山に関する記述が多数みられる古文書。吉田家は気仙地区の大肝入(庄屋)を勤めた家柄で、当時の金山の稼働の様子が書かれています。豊臣秀吉や伊達政宗など時の為政者たちが、積極的に採金事業を展開させた状況を具体的に示す貴重な資料です。	岩手県 陸前高田市 (陸前高田市博物館)
4-4	ひかみさん すいしょう 氷上山の水晶	未指定 (天然記念物)	氷上花崗岩にできた鉱床から産出する水晶。水晶は、花崗岩の主要構成鉱物である石英(金鉱石)が結晶化したもので、仏像の玉眼に使用されました。今も玉山金山の廃石の中に見つけることができます。金鉱石を特徴づける貴重な資料です。	岩手県 陸前高田市 (陸前高田市立博物館)
4-5	せかい だいいせき たまや まれいき 「世界大遺跡玉山霊域」  とう の塔	未指定 (歴史資料)	昭和7年のJR大船渡線竹駒駅の開設とともに、金山を顕彰しその名を後世に伝えたいという地域の方々の強い思いで設置された塔です。戦争や震災で幾度も破壊されましたが、その度毎に地域住民の力で再建され今に至っています。金山の繁栄が如何に多大な影響を地域社会に与えたのかを知る上で欠かす事のできない貴重な歴史資料です。	岩手県 陸前高田市
4-6	たまやま じんじゃ 玉山神社	未指定 (史跡)	竹駒神社と共に金山の守護神として勧請された神社。奥州藤原氏や伊達氏が深く信仰しました。境内周辺は金鉱石や水晶化した鉱石が露出しており、当時の佇まいを今に伝えています。	岩手県 陸前高田市
4-7	まつざか じゅうべい さいだなり 「松坂十兵衛定成  かい たくち ひ 開拓地」の碑	未指定 (有形)	衰退する金山で働く鉱夫の生活を支えるため、山間部を田畑として開拓した事跡を顕彰する碑。碑の周辺の田畑は、「新田」の地名で呼ばれています。	岩手県 陸前高田市

4-8	まつがせき 松坂堰	未指定 (史跡)	衰退する金山で働く鉱夫の生活を支えるため、開拓した新田に壺の沢川から水を引いた用水堰。玉山金山の開発で培われた引水技術や坑道掘削の際の測量技術を利用してつくられています。堰からのびる幹線水路約1キロメートルは、現在も使用されています。	岩手県 陸前高田市
4-9	たけこまじんじゃ 竹駒神社	未指定 (史跡)	玉山神社と共に金山の守護神として勧請された神社。玉山神社と対をなし、金山を守護してきた重要な社です。奥州藤原氏や伊達氏が深く帰依しましたが、金山の衰退とともに里において現在地に遷座しました。金山の栄枯盛衰を物語る貴重な文化財です。	岩手県 陸前高田市
4-10	しょうごんじ かえ まつ 莊嚴寺の返り松	未指定 (天然記念物)	莊嚴寺の境内にある松（樹齢約200～400年）。玉山金山所縁の寺院であった莊嚴寺が、金山の衰退により現在の地へ遷座するに伴い、植えられました。「玉山に帰りたい願を龍のようにくねる姿で表している」と言われており、里人の金山に対する思いを象徴する松として親しまれています。	岩手県 陸前高田市 (莊嚴寺)
<small>ししおり</small> <small>おおや</small> <b>《鹿折金山・大谷鉱山》 日本のゴールドラッシュの一翼を担った近代鉱山</b>				
5-1	ししおりきんざんあと 鹿折金山跡	未指定 (産業遺産)	気仙沼市鹿折川上流に位置する金山。明治時代の金山近代化の中で、世界を驚嘆させた日本最大の自然金「モンスターゴールド」を産出しました。「みちのく」の金山を、国家を支える資源にさせる立役者となった金山です。山麓の旧鉱山事務所から山中にかけて、坑道跡やトロッコ跡、鉱石を投棄したズリの山が点在しています。	宮城県 気仙沼市

5-2	ばんこくはくらんかい セントルイス万国博覧会  だいしょうじょう 大賞状	未指定 (歴史資料)	明治37(1904)年、鹿折金山では重さ2.25キロ、含有率83%の怪物金「モンスターゴールド」を採掘しました。小さな金塊すら産出が難しい中、その大きさは世界に驚愕を与え、同年開催のアメリカ・セントルイス万国博覧会に出品され、青銅メダルを受賞します。これはその受賞を記念した大賞状です。「黄金の国ジパング」の底力を世界に示し、みちのくの黄金産出の実態を見せた証となっています。	宮城県 気仙沼市 (鹿折金山資料館)
5-3	ししおりきんざんさいいくつしりょういっしき 鹿折金山採掘資料一式	未指定 (歴史民俗資料)	鹿折金山で鉱石の採掘や選鉱に使用した資料。採掘具や金を溶かした溶鉱炉をはじめ古写真や文書類などで構成しています。金山採掘の過程や怪物金「モンスターゴールド」に関する記録が含まれており、近代化していく金山の様子がよくわかる資料です。	宮城県 気仙沼市 (鹿折金山資料館)
5-4	おおやこうざんあと 大谷鉱山跡	未指定 (産業遺産)	気仙沼市大谷地区にある金鉱山。鹿折金山でのモンスターゴールド産出の影響を受け、明治38(1905)年に採掘を開始し、昭和51(1976)年まで操業し鉱山町を形成しました。1250余年に及ぶ、採金事業の中で最終形態を示した貴重な遺産です。山腹にそびえる、コンクリート造りの巨大な精錬所跡は、当時の繁栄ぶりを偲ばせるモニュメントとなっています。	宮城県 気仙沼市
5-5	おおやこうざんさいいくつしりょういっしき 大谷鉱山採掘資料一式	未指定 (歴史民俗資料)	大谷鉱山で鉱石の採掘や選鉱に使用した資料。鉱員たちが使用した採掘具をはじめ、掘削や選鉱に関わる機械や文書、写真記録などで構成しています。日本の近代金鉱山が辿った大規模化と繁栄、そして時世により閉山を迎える有り様までを伺い知る貴重な資料です。	宮城県 気仙沼市 (大谷鉱山歴史資料館)
5-6	おおやこうざんさいいくつじんこうせき 大谷鉱山採掘金鉱石	未指定 (産業遺産)	大谷鉱山で採掘した金鉱石。北上山地南部地域の自然金は、肉眼でも確認できるような粒で発見できることが多いのが特徴とされており、この金鉱石でも容易に金粒を見つけることができます。砂金採りを始めとする事業が広く普及したのもこうした「みちのくの金」の特徴があるからと言えます。	宮城県 気仙沼市 (大谷鉱山歴史資料館)

～花咲け“みちのくGOLD”浪漫～				
6-1	こんぼうじ 篋峯寺	観音堂・白山社・仁王門：町指定(建造物)	日本初の金を産出によって「神仏の加護を受けた聖なる山」と位置付けられた篋岳山は、平安時代になると山岳信仰と結びつき「みちのくに安泰をもたらす聖地」と認識されるようになりました。一山寺院「篋峯寺」は、創建から1,250年を経た今も山頂を「殺生禁断」の聖域としてまもり続けており、地域信仰の拠点となっています。篋峯寺は、産金で名を馳せた山が聖地化する中で、地域の安定を願う信仰の対象へと昇華したことを示す好例です。	宮城県 涌谷町
6-2	さいきんどうぐいっしき 採金道具一式	未指定(民俗資料)	川での砂金採取や、鉱石から金を取り出す際に使われた道具類。古代より続けられてきた砂金採りは、近世の御本判制度を通じ、地域の人々生活を支える生業として根付きました。また、鉱石から採取する金山についても、その稼働が終了した後も個人経営による採金事業として里の中に定着し、近年まで採金事業が続けられてきました。暮らしの中に溶け込み、息づいてきた道具です。	岩手県 陸前高田市 (陸前高田市立博物館)
6-3	さきんさいしゅみんぞくしりょういっしき 砂金採取民俗資料一式	未指定(民俗資料)	篋岳山の沢での砂金採取に使われた道具類。古代より続けられてきた砂金採りは、近世の御本判制度を通じ、地域の人々の生活を支える生業として根付きました。日本初の産金地である涌谷町でも、近年まで、農閑期の副業として砂金採りが行われてきました。暮らしの中に溶け込み、息づいてきた道具です。	宮城県 涌谷町 (天平ろまん館)
6-4	えんうんかんでいえん 煙雲館庭園	国名勝	江戸時代、気仙沼に拠点を置いた仙台藩上級家臣・鮎貝氏の庭園。金鉱石をすり潰すのに使われた金山用の石臼が庭石として転用されています。近世金山が乱立し、古代から続く採金事業が広く根付いてきた地域だからこそ、こうした庭園が生まれました。金の採取に使われた道具類が地域の生活に溶け込んだことを示す好例と言えます。	宮城県 気仙沼市



6-5	ひでひらぬり 秀衡塗	未指定 (工芸品) (経済産業大臣指定 伝統的工芸品)	金色堂をはじめとする金の加工・細工技術を今に伝える伝統的工芸品。藤原秀衡が京より職人を招来し、産出した砂金をふんだんに使って豪華絢爛な器を作らせたのが起源とされます。	岩手県 平泉町
6-6	くびふりベーゴ	未指定 (民俗資料)	玉山金山で産出した金を俵につめ、牛で運ぶ姿を模した張子の郷土玩具。江戸時代から製作されている伝統工芸品で、金山の繁栄を偲ぶ一品として地域に受け継がれてきました。	岩手県 陸前高田市
6-7	こだてすずきけじゅうたく 古館鈴木家住宅	未指定 (建造物、 歴史資料)	江戸時代、鹿折金山などの金山開発や砂金徴収を任された唐桑の旧家の住まい。古館鈴木家は延宝3(1675)年、紀州熊野から鰹釣り溜漁を伝え、のちに漁業や醸造業など、時代に合わせた多角的な家経営を展開し、明治時代には大谷鉦山の再開発も手掛けました。古館鈴木家に残されている金掘り関係の古文書から、この地方で盛んに金掘りが行われていたことが分かります。この地域に浸透した「金」採掘、海と共に生きた旧家の在り方を伝える好例です。	宮城県 気仙沼市
6-8	けせんぬまこう かざま ふうけい 気仙沼港と風待ちの風景	未指定 (文化的景 観・国登録有 形文化財)	江戸時代、この地域での金掘りは生活の糧として根付き、日常的に盛んに行われるようになりましたが、盛んになればなるほど長期にわたり安定した金の産出量を確保することは難しく、地域の大きな負担となっていました。気仙沼では、鰹漁などを導入しながら金掘りを継続、やがて風を受けて出帆するたくさんの船がひしめく「風待ち港」として発展していきます。気仙沼では、山師(鉦夫)たちが拓き、支えてきた港町だと言われています。「気仙沼港と風待ちの風景」には、採金が「みちのく」の風土に解け込み、港町を発展させた歴史が込められています。	宮城県 気仙沼市

6-9	け せんぬま う ばやし 気仙沼の打ち囃子	一部指定 (無形民俗文化財)	金の産出を祝う「山の神」祭りで奉納された太鼓囃子。港町の発展と共に、航海の安全や大漁も祈願する芸能として根付きました。躍動感があり勇壮な太鼓の響きは、採金の中で生み出された文化が海の文化と結びつき、「活気や賑わいの象徴として脈々と人々に受け継がれてきた」ことを感じさせる貴重な郷土芸能です。	宮城県 気仙沼市
6-10	け せんぬま たいりょううたいこみ 気仙沼の大漁唄込 しびたちたいりょううたいこみ ・ 鮪立大漁唄込 さきはまたいりょううたいこみ ・ 崎浜大漁唄込	市指定 (無形民俗文化財)	金山で働く鉱夫たちの労働唄が、漁師たちに伝わって大漁を祝う唄となった。金山からもたらされた文化が海の文化と融合し、地域産業の発展と共に育まれていったことを強く実感させる郷土芸能です。「みちのくの地が育んだ山川と里、海とともに生きる風土の中に根付いた“金”との縁」を物語る特色ある文化財です。	宮城県 気仙沼市

(※1) 文化財の名称には振り仮名を付けること。

(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること(例：国史跡、国重文(工芸品)、県史跡、県有形、市無形、未指定(建造物)、等)。なお、**未指定であっても文化財保護の体系に基づいた分類を記載**すること。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること(単に文化財の説明にならないように注意すること)。

(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること(複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。